

講義名	対)専門基礎演習(人)			授業形態	
担当教員	山本 勝巳	開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

1年次には夢の種を授け、見つけることを目的に「自己発見とキャリア開発」を履修してもらいました。2年次前期開講の専門基礎演習は、夢の種を育てるための基礎を築くことを目標とした演習形式の授業です。論理思考の向上を目指します。この数年、日本語について無料で利用できる音声合成技術が複数発表されています。自分の発声した日本語や世界中で使われている様々な英語を組み合わせて、それらしい発音に近づけるにはどうするか、音声分析の立場から必要な基礎的な知識と技術を知り、言語学からのアプローチでの音声編集に挑戦します。データに基づく論理的な議論の素養を育みます。

到達目標

1. 自分の声のデータを使って、基礎的な分析ができるようになる。
2. 自分の声のデータを素材に、音声編集ができるようになる。
3. データ処理の基本を身につけ、Word、PowerPoint、Excel等を使った文書作成が行えるようになる。

提出課題

1. 分析データ(Excelファイル)
2. 発表用スライド(PowerPointファイル)
3. 分析データの説明ファイル(Wordファイル)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出課題については登壇講義内で確認します。小テストについては、解答後直ちにスコア等がオンラインで確認可能。

評価の基準

課題提出状況及び「記述内容で」判断します。課題提出が「10回以下の場合、単位認定の対象になりません。

履修にあたっての注意・助言他

受講生には好奇心を持って欲しい。演習で「取り上げ」る課題について「けて」なく、そこから派生する事柄について調べ「る」ことも重要です。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業中に適宜資料を配布する。

授業計画

1. ガイダンス
2. 話しことばの特徴(理論)
3. 母国語の特徴・英語の特徴
4. 日本語の音韻・話しことばの音韻
5. 話しことばのプロソディ
6. 話しことばの特徴(実践)
7. 話しことばの分析1
8. 話しことばの分析2
9. グラフ・図の作り方
10. Excelによる簡単な集計
- 11-14. 調査の報告
15. まとめ

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

初めて聴く用語か「多いと思いますので」必ず「予習・復習をしてきた」さい。
予習:発表のための課題提出を行う(各自2時間)
復習:用語の復習・分析(各自2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

情報収集力・情報分析力を育み、人間社会学部生に特に求められる「実証的な調査研究の方法」に習熟する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

課題の提出・資料の配付にはMoodleを利用する。

実務経験の有無及び活用

備考